



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和7年度地域でつながる家庭教育応援事業 家庭教育応援リーダー育成事業 家庭教育支援者地区別研修会（相双地区）

『絵本のある生活 ～絵本のステキなチカラ～』講座の概要

期 日：令和7年11月26日（水） 時 間：13:30～16:00

場 所：南相馬市民情報交流センター マルチメディアホール

参加者：39名 家庭教育関係者、家庭教育・子育てに関心のある保護者や教職員、地域の方々、市町村社会教育行政関係者、放課後子ども教室及び放課後児童クラブ関係者、地域家庭教育推進相双ブロック会議構成員、教職員、保育士、学校司書、図書館司書、市町村図書館職員、公民館職員、放課後子ども教室のスタッフ、家庭教育や読書活動に関心のある方

「幼児期における読み聞かせの効果」

はしれティーゼルきかんしゃ テーテ

童話作家のすとうあさえ氏を招き、家庭教育支援者地区別研修会を開催しました。幼児期における家庭を取り巻く現状や支援者としての役割について、改めて理解を深めることができました。幼児期は、言葉や感情、社会性の基礎が育まれる最も重要な時期です。この時期の親の関わりは、子どもの健やかな成長に大きく影響します。本日の研修を通して、**絵本が幼児期の成長において果たす役割の大きさ**を改めて認識することができました。



すとう あさえ 様
「絵本の読み聞かせは、語彙力や想像力を育てるだけでなく、登場人物の気持ちに触れることで共感的な感情や道徳心などを養う機会となります。保護者と子どもが同じ絵本を読み合うことは、子どもの安心感や**親子の絆を深める大切な時間**にもなります。」

今回、子どもの発達段階や季節に合った絵本を紹介していただきました。家庭と連携しながら子ども一人ひとりの心の成長を支え、保護者の不安や悩みに**寄り添った支援**ができるようになること。特に、支援者自身が一方的に助言するのではなく、保護者の思いを受け止めたり、共に考え合ったりする姿勢がとても大事で、保護者が安心して相談できる環境づくりに努めていくことも大事であると学びました。「**絵本には、ステキなチカラが宿っています！**」

講話の内容



なぜ子どもたちは、絵本が好きなのでしょうか？

- ・アニミズムとは（人間、動植物、無生物など全てのものに魂が宿る。）
- ・読むひと時が、積み重なって幸せな記憶へ：絵本のある生活を大切に！

季節の行事のエピソードから、絵本の紹介！

- ・ご家庭で、絵本と行事を楽しんでください！
- 冬至（2025年12月22日） ●端午の節句 5月5日
- お月見 中秋の名月/十五夜 旧暦8月15日（2026年9月25日）

幼稚園でよく読んだ絵本の紹介

絵本は、ステキなチカラをもっている！

※メディア社会との共存



すとう あさえ 様から、ご紹介いただいた絵本や紙芝居

リンク先：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/721916.pdf>

【家庭教育支援者地区別研修会を終えて ～参加者の声～】

・読み聞かせを交えた貴重な研修会に参加できてよかった。「行事」や「こよみ」についての絵本を書かれているからこそ、詳しい話が聞けて、楽しかった。

・絵本は、人と人、心と心を繋ぐものだということを改めて実感した。読み聞かせを通して、子どもとのふれあう時間、幸せな時間を増やしていきたいと思った。

・改めて絵本の魅力を感じることができた。ICTが発達する中でも幼児からの紙での読み聞かせを十分に行って、一時のふれあいを大切にしたいと思った。また、最近の子どもたちは行事をよく知らない子が多いと感じるので、今回のように絵本を通じて行事に対する興味・関心を高めていくことも大切だと思った。読み聞かせを聞けて、とてもよかった。

・今回の講話を聞いて、「アニミズム＝生物・無生物を問わず、あらゆるものに魂や精霊が宿っているという考え方や信仰」という言葉を学んだ。今後、読み聞かせなどをするときには、子どもたちがどんな物語の世界を想像しているのか考えながら、「幸せの記憶」の1つになるように工夫していきたいと思った。

・二十四節気のお話や行事のお話（言い伝え）など、具体的に教えていただき、大変勉強になった。大人が知らない、子どもに伝えられないという面で、本を通して学ぶ、貴重な機会となった。1冊だけでなく、複数の本を読み聞かせをしながら紹介していただき、普段は手に取ることのない本だったので、世界が広がった。デーデのお話、さらに好きになった。学校に戻ったときに、たくさん紹介していきたいと思った。これまでのご準備、大変だったと思う。

・7月の研修にも参加していた。中止となったことを残念に思っていたが、このような機会（再研修）を設けていただき、ありがとうございました。

・改めて日本の行事について知ることができ、その素晴らしさを感じることができた。小学生たちにその素晴らしさを、絵本を通じて伝えていきたいと思った。特に冬至の絵本の読み聞かせをぜひしたい。すとう先生の優しいお人柄がお話から伝わり、和やかな温かい雰囲気 of 素敵な講演会だった。

・幼児教育における読み聞かせの大切さが分かった。私は中学校に勤めているが、彼らも絵本の読み聞かせの時は、耳を傾けてくれている。生まれたときからデジタルに囲まれている現代の子どもたちに直接、絵本の読み聞かせる体験は、とても大切なものだと感じた。

・絵本と子どもをつなぐ大人がいるということがとても重要だと再認識した。

・季節を感じる機会が少なくなったり、四季がはっきりしなくなったりというこの頃だが、絵本を通じて、自然にふれ、子どもと一緒に外に出る機会を絵本がつくってくれるのだと思った。家庭での毎日にも取り入れていただけたらと願ってやまない。

・以前から絵本が大好きだ。子育てが終わり、現在は放課後子ども教室に関わり、また絵本を読む機会に恵まれて子どもたちと楽しい会話のやりとりが励みになっている。これからもまだ読んでいない絵本を見つけて、心の栄養になれば素敵だと思っている。

・すとうあさえさんの本は、学校の図書館にもたくさんある。とても優しいお話のされ方で、デーデの裏話なども聞くことができ、大変良い体験になった。東日本大震災に、こんな風に関わってくださっていたこと、初めて知った。改めてすとう先生の本を読み返してみたいと思った。行事の絵本、読み聞かせたい。